



平塚ロータリークラブ 週報

Hiratsuka R.C. Weekly

ロータリーは
機会の扉を開く

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

会長：鳥山 優子 副会長：清水 雅広 幹事：江藤 博一 クラブ会報委員長：葛西 敬

例会日 毎週木曜日 12:15～13:30

会場 グランドホテル神奈中 2F

事務局 平塚市松風町 2-10 平塚商工会議所内

連絡先 0463-23-5955 (事務局)

2021年 6月10日 第 3314 回 週報第 3314 号

本日 6月10日	会員数 61名	対象者 60名	出席者 43(42)名	出席率 70.49%			
前々回 5月27日	会員数 61名	対象者 60名	出席者 39(39)名	出席率 65.00%	MUP 4名	計 43名	修正率 71.67%

本日の卓話者ご紹介

平塚ロータリークラブ
会長 鳥山優子



卓話

「会長卓話」

平塚ロータリークラブ
会長 鳥山優子

平塚ロータリークラブの会長として新年度を迎えたとき、私はあることを決めました。それは、例会の会長挨拶に、力を注ぐということです。

会長として、この平塚ロータリークラブをより良いクラブにするためには、私が理想とするクラブ像とみなさんが考えるクラブ像のイメージを擦り合わせなければなりません。そのためには、本来ならみなさんと膝を突き合わせて話し合い、お互いの考えを対話によって理解し、深め合うことが必要です。

しかし、1時間という限られた例会の時間の中で、総勢60名を超える会員のみなさんと、ひとりひとり意見を取り交わすことは現実的に難しい……。だから私は、会長挨拶の場を借りて、自分の想いを発信していき、みなさんの反応を見ながら今後の方向を定めていくことにしました。

ここに、これまでの会長挨拶で使用したスピーチ原稿があります。先週の下期情報集会の発表の日までの原稿

です。ひとつひとつ、その時々みなさんにお伝えしたいメッセージが込められています。そこで本日は、このスピーチ原稿を振り返ろう……と思ったのですが、さすがにそれは苦行だと思うのでやめにしました。

では、何を話すか。実は先週、情報集会の発表で、昨年入会された志村会員がこんなことを言っていました。「自分はこれから新人卓話をしますが、以前からいる会員の方々の入会卓話はどんな感じだったんだろう」と言っていたのが印象に残りました。

思えば私が入会卓話をしたのが今から17年前。そのころの私の話を聞いていた人は、今10数人しかいらっしゃいません。そこでせっかくお時間をいただいていますので、今回は私がいったい何者なのか。なぜ会社を経営することになったのか。ちょっとしたヒストリーをお話したいと思います。

私が生まれたのは東京都板橋区です。板橋区役所のすぐ近くで、下町です。住宅が密集していて、今遊びに行っても、家が新しくなっているくらいで、昔とあまり変わっていません。幼稚園は、板橋明星幼稚園、今もあります。そのころは路地の間を抜けて、かくれんぼをしたり、探偵ごっこをしたりして遊んでいました。そして父の仕事の関係で年長の時、平塚市の紫苑幼稚園に転園しました。実は杉山昌行会員も同じ幼稚園で同級生です。そのことを知ったのは私が平塚ロータリークラブに入ってからなのですが、この頃から不思議なご縁をいただいているのだなあと思います。

さて、そんな幼稚園生の私は、みんなのうたをピアノで伴奏をしたり、お遊戯会では、シンデレラや、クリスマスの子供の誕生の演劇ではマリア様の役をもらいました。なので、保護者が幼稚園にクレームを言いに来たことを覚えています。「先生は東京から来た子をひいきしている」と。

そんなことを言われても、私自身はとても楽しかったです。このころから今を楽しむ、というのが自分のモットーのようなものになりました。

小学校は松原小学校に入学します。そこでも、自由に楽しむ環境に恵まれました。以前にも話しましたが、私が作曲した曲を発表会でクラスのみんなに演奏してもら

ったり、私が書いた脚本で演劇の作品を演じてもらったり、とにかく先生は自由にやらせてくれました。

また今だったらありえない話ですが、私の担任の先生と姉の担任の先生が仲が良く、そこに音楽の先生も加わって3人で、しょっちゅう家に遊びに来ていました。うちでギターやピアノを弾いて、ビールを飲みながら歌を歌って盛り上がる。今でいうカラオケボックスみたいなものです。うちがたまり場ようになっていて、夕方になると先生が家にいるという状態です。自分たちは騒いでいて、「優子はもう遅いから寝なさい」という始末です。そんな感じで私も、先生もとにかく自由。楽しいことは目一杯楽しもうという人たちに私は囲まれて育ちました。

ちなみに小学校1年か2年の作文で、私の将来の夢に「社長」と書いていましたが、当時読書が大好きで、毎日いろいろな本を読んでいたのですが、その本の中に社長という権力が、自由で、楽しいものだと思われていたらしく、私はそれだったらやってみたくて憧れを抱いていたようです。ただ、将来について考えたのは後にも先にもこの時だけ。ですから中学に入学してからも、私は今を楽しく生きるということを選択しているようでした。

中学校は、江陽中学校。常盤会員と同級生でした。そんな中学時代も、勉強以外のことに一生懸命でした。当時学校の敷地に戦時中の火薬廠跡があり、地下壕のようなものがあり、そこは立ち入り禁止でした。でも、人間、入っちゃダメと言われると、入りたくなくなってしまいますよね。そこで、友達と日取りを決め、はしごや懐中電灯を用意し、地下に入り、キャーキャー言いながら、廃墟ツアーのように楽しみました。

後日、朝礼で先生が地下に入ったのは誰だ？と全体に向けての注意がありました。私たち以外にも入っていた人がいたんだと思います。もしかしたら、常盤君かも知れません。

また、別の日には、中学はお弁当なのですが、こっそり抜け出して、隣にある市役所の地下の食堂にお昼ご飯を食べに行っていました。当然、その時間学校から抜け出してはいけません。でも私はお昼を食べに行くぐらいの感覚で言っていました。私たちは制服を着ているので、さすがにバレてしまい、市役所の人から学校に通報があり、やはり朝礼で、全体に向けて注意がありました。個人的には注意がなかったのですが、運が良いと思いました。

高校は、平塚江南高校に進学しました。ここで、鳥海会員と同じクラスになりました。鳥海会員とは50年ものお付き合いとなります。今でも鳥海会員と話をするとき、高校1年生に時が戻ったようになります。

さて、高校に入るとさすがにこれまでと雰囲気が変わります。私は相変わらず毎日遊び惚けていたので、次第に友達と頭脳や知識の格差を感じるようになりました。優秀な人は、1年生の入学式のその日から、大学入試の勉強をしていた人もいます。そのうち何人かはお医者さんになりました。友達との会話でも「どこの塾に行ってるの？」と聞かれましたが、私は塾には行ったことがあ

りませんでした。みんながそうやって遊びから勉強ヘシフトしていましたが、それでも私は勉強を一生懸命やるわけではなく、コンサートやライブに行ったり、遊び続けていました。

その結果、大学は落ちてしまいました。みんなが受かっているものだから、てっきり自分も受かるとかと思っていたのに……。それで1年間受験のための勉強をして、入学したのが、中央大学です。中央大学には齋藤先生という、哲学の名物先生がおり、わたしはその先生に教わりたくて文学部哲学科に入りました。でも、それを聞いた私の母はがっかりしていました。「経済学部とかなら就職に有利なのに、哲学科ってあんたいったいどこに就職するのよ」と。

さらに私が専攻したのは、カントなどのメジャー哲学ではなく、「我思う、ゆえに我あり」で有名なデカルト。その上に、選択科目は、中央大学というマンモス校なのに、たった5人の学生しかいないインド哲学を取っていました。それが母を更にガッカリさせたようです。

また、勉強以外の趣味も人と違うことばかりしていました。それが以前お話しした射撃部です。射撃部は体育会で、中央大学は1部校でしたので上下関係が非常に厳しいところでしたが、それも含めて楽しんでいました。他の人たちは、将来の自分の設計のために学部を選んだり、専攻科目を選んだりしています。そういう人たちからすれば私の行動は親も含め理解できなかったことでしょう。でも、私は「大学に入ったら大学の時にしかできないことをやろう」と思っていました。哲学選考も射撃部も、大学在学中の4年間は、とにかく社会に出たらできないことをやりたかった。全力で今を楽しむことを選んでいました。

そんな私に人生初めての転機が訪れます。それは、後の結婚相手となる彼との出会いです。彼は射撃部の同級生でした。私は付き合っていたわけではなく、射撃部のみんなと普通に仲良くしていただけなのですが、どうやら彼は違っていただけのようです。

大学の卒業式の日、食事に誘われて、六本木にある中華料理店へ行くと、なんだか雰囲気が違います。彼の両親と親戚のおじさんがいて、「この子はうちの嫁としてやっていけるのか」といわんばかりに、私を品定めしているようでした。「もしかして私、このまま結婚しちゃうのかな？でも嫌いじゃないし、いい人だから結婚しても何も悪いことはない。だったらまあいいか」このくらいのノリで結婚を決めてしまいました。

さて、これまでずっと自由奔放に生きてきた私ですが、結婚してからはガラッと生活が変わりました。以前にもお話ししましたが、彼の家は1000坪ほどある九州の名家。家に入ったその日から、私はみんなから若奥様と呼ばれるようになりました。

来る日も来る日も、掃除、洗濯、食事の支度と家事だけで一日が終わってしまいました。気分転換にプールへ

泳ぎに行きたいなと思っても、休む時間ありません。あれだけ自由にやってきた学生時代が、はるか昔のように思えます。

また、お正月やお盆は親戚が一日中ひっきりなしに訪問するのでさらに忙しい。これだけ生活が変わったものの、名家に嫁ぐ覚悟を決めていたところもあったので、つらいとか苦しいというのは、それほどありませんでした。「こんなものか」みたいに納得していました。

しかし、2年ぐらいたったところから、外で働きたいと思うようになりました。それを申し出るともちろん反対され、東京か大阪に出たいといいましたら、「自分は長男だから、家を守るし、ここを離れるわけにはいかない」といわれました。

その時私は初めて、地方の名家の長男は生まれた時から長男はこうあるべきだと教育されてきたのだということを知ります。世の中にはどうにもできないことがある。ですから私はこの家を出ることに決めました。

お金も貯金もないまま、平塚に戻ってきて、まずは自分の生活の基盤を立てなくてははいけない。そこで仕事を探していたところ、母の知り合いを介して、ある運送会社の社長と面接することになりました。社長は私に、「君に、総務と経理をすべて任せるから全部やってほしい」といいました。私は運送会社のことはおろか、総務や経理の仕事についても何一つわかりません。驚いて聞き返しましたが、「君は学卒だろ。今仕事に分からなくても、知識がある人を入れることが中小企業には必要なんだ」とおっしゃいました。

この社長は真剣に会社とその未来について考えている。社長のひとことひとことに重みを感じ、その会社に入社することにしました。入社してから3か月後、社長は交通事故で亡くなりました。そのことがさらに私が将来を託されたのだと感じさせ、この会社のために働こうと改めて覚悟が決まりました。

それからは運送会社の知識を得るための猛勉強の日々が始まります。入ったその日から振替伝票を切らなければならず、すぐに商工会議所の簿記検定を受けました。総務の仕事をごすため、衛生管理者の資格を取ったり、損害保険代理店の特級資格を取ったりしました。私の中では、稼げる総務を目指していました。そして10年ほどの月日が経つと、さすがに運送会社の流れなど、ある程度分かってきます。そうすると、私が自ら手を下す仕事がどんどん減っていき、ほとんどのことはスタッフがやってくれるようになりました。

最初はよくわからずやっていた経理の仕事も給料計算もおもとのところだけ私がやって、実務はスタッフに任せます。通達も、私が話していることを代行してスタッフがパソコンいや・・・に打ってくれる。だから仕事が多々つまらなくなりました。私はもっとクリエイティブな仕事がしたい。なのにハンコを押すだけの毎日。そんな時、独立という言葉が頭をよぎります。ちょうどそのころ、社内のある人物が、仮にAさんとし

ますが、Aさんが社長と大喧嘩をして、会社を辞めさせられることになりました。

私は隣の部屋で喧嘩の内容が聞こえていたのですが、どう考えてもAさんの方が筋が通っている。しかし、結局はAさんが辞めさせられることになったので、世の中は正論だけじゃダメなんだということを知りました。私は総務課長として淡々と退職の処理をしていきました。そのAさんが後のビジネスパートナーになるとは、その時は考えもしませんでした。その3か月後、私も今後の人生についてきちんと会社を辞めることにしました。半年くらいのんびりして旅に出て、世の中の見聞を広めることにしました。

退職日が近づいたころ、そのAさん、大楽と言います、から連絡がありました。どうやら私が辞めるといううわさを聞き付けたようです。相談内容は今後の就職先についてでした。「今までやってきたことをやった方がいいんじゃない？ やっぱり運送しかないと思うよ」と即答しました。「じゃあ運送会社を有限会社で作ろうかな。一緒にやらない」この時初めて起業のことを口にしました。

一方私は、起業には興味があるけど、正直うまくいかどうかわからない会社を、まして会社と一緒にやること不安がありました。なので、経理ぐらいだったら手伝うよと返事をしました。それからしばらく考えて「有限会社じゃトラック一台も買えない。だったら株式会社でやりたい。」当時株式会社設立には、1,000万円が必要だったので、「私も500万円出すから500万円出す気があるなら、やる」と返事をしました。そこからスタートです。ここまで来たらもう後には引けません。急いで登記に必要な書類をそろえ、2000年5月2日大安、株式会社ビッグプランナーの誕生です。

さて、会社を設立したものの、トラックは1台もなければ、運送会社をやるための免許もない。さあ、これからどうなるのか。私の起業家としての第2の人生はどうなるのか。この先のヒストリーの後編は、まだどこかの機会でお話しできたらと思います。

ここまで長い時間、私の話を聞いてくださりありがとうございました。自分のことをここまで語ったのは本当に久しぶりです。こうして大勢の前で話したのはおそらく初めてでしょう。

中には眠くなってしまった人もいるかもしれませんが。ただ私は、他人と真に分かり合うためには、自分のことを包み隠さず、話し合うことが大切だと思っています。冒頭私は、互いの考えを理解し、深め合うために会長挨拶の場を借りて、メッセージを発信してきたことをお伝えしました。そのメッセージがきちんとみなさんに届いていたかは正直わかりません。

しかし、挨拶の後に感想をおっしゃってくれたり、褒めてくださったり、意見をくださったり、また時には行動に表してくれたり、少なからず何かしらみなさんに感じていただいたことはあったのではないかと思います。

次年度はこれまで以上に女性のエンパワメントが求められ、インターアクト、ローターアクトなど若い世代を参画させることも重要視されています。

まさにロータリー全体でダイバーシティー&インクルージョンを率先し実践していくこととなります。それ故に、これまでなかった素晴らしい価値観に触れることもあれば、受け入れがたい考えにぶつかることもあるでしょう。でも私たちには言葉があります。話し合っ、お互いを分かり合うことができます。だからみなさん、もっと話しましょう。もっとコミュニケーションを取りましょう。

コミュニケーションの語源は、ラテン語のコムニカチオです。コムニカチオは「分かち合い」という意味です。そしてわかちあいは私たちの使命である奉仕の原点です。これまでみなさんとさまざまなことをわかちあえたこと、そしてこれからもわかちあえること、私は本当に幸せだと思います。

長い間で清聴いただき、ありがとうございました。

会長報告

本日は会長卓話もあるので、手短かに終わらせたいと思います。私は、会長になる1年位前から、自分の代は音楽の会にしたいと思っていました。

みんなでコーラスをしたり、みんなでウクレレを弾いたりして、音楽で気持ちを通じあわせたら素敵だなと思っていました。しかし、このような状況になり、音楽はおろか、みなさんと集まってお話しすることもままならなくなりました。

私が抱いていた野望を達成できなかったことは非常に残念ですが、嬉しいこともたくさんありました。それは、みなさんがこのロータリーのために、これまで以上に積極的に関わり、できない中でもできることをたくさんやってくれたことです。毎月の音楽例会は叶いませんでしたが、9月にはフルートとギターのコンサートを開催し、みなさんにも「こういう形なら今でもできるよね」と手ごたえを感じていただきました。そして、クリスマス例会でのダンロクの演奏、ニューイヤーコンサートでのハープの演奏に繋げることができました。

また、音楽例会に留まらず、WEB例会や、新しい形の家族例会なども実施できたことを、本当に嬉しく思います。これも、できないからと諦めてしまうのではなく、できることをやろうとみなさんに多大なるご協力をいただいたおかげです。本当にありがとうございます。

会長としてこの場で挨拶させていただくのは、あと1回。最後まで、できることをやって、駆け抜けていきたいです。

退会のご挨拶

6月末で退会されます升水富次郎会員は、昭和44年7月に入会。以来、52年間に渡りロータリー活動にご活躍されました。心より感謝申し上げます。



いつも帽子をかぶられ背筋を伸ばして歩かれる96歳の升水富次郎会員

平塚南ロータリークラブ解散へ

平塚南ロータリークラブは平塚RCを親クラブとし、44年間活動されました。ありがとうございました。



平塚南RCが解散されることになり、ご挨拶にいらした原澤会長、平野副会長、清田会員



平塚南RC 原澤会長



大谷パストガバナー



佐藤ガバナーノミニ



吉野 AG



米山功労者の表彰を鳥山会長より受け取られた江藤幹事

幹事報告

- ◎6/12(土)13時より現・次合同インターアクト委員会が Zoomで開催されます。
柏手会長エレクト、瀬尾インターアクト委員長、相山次年度インターアクト副委員長が出席されます。
- ◎来週の例会は20-21年度入会の新会員歓迎例会です。
通常は夜間例会ですが、平塚市もまん延防止等重点措置が適用されておりますので、今年度は通常例会の時間の12時半から13時半までの開催となります。
- ◎先日の健康診断の結果が届いておりますので、受けられた会員は帰りに受付にてお受け取り下さい。

委員会報告

- 親睦委員会 志村拓委員
来週の例会は新会員歓迎会となりますが、通常例会と同じ時間、昼間に開催されます。
お食事はいつもより少しパワーアップされ、飲み物もノンアルコール類が提供されます。
楽しい会となるよう、委員会で知恵を絞って計画をしています。

今週のお祝い

誕生日祝い・・・無し
結婚祝い・・・無し

メークアップ (MUP) 4名

秋山智会員、清水雅広会員、三荒弘道会員
守屋宣成会員

本日のスマイル 33名

ゲスト 0名

ビジター 7名

相模原南RC	大谷新一郎パストガバナー
津久井中央RC	佐藤祐一郎ガバナーノミニ
平塚湘南RC	吉野龍彦AG
〃	井出隆夫様
平塚南RC	原澤正脩(はらさわ まさゆき)会長
〃	平野恵美子副会長
〃	清田幸宏(せいた ただひろ)会員

卓話・行事予定

6月17日(木) 新会員歓迎例会
6月24日(木) 休会

市内例会変更

現在ございません

